

【川田地区】

地区別の主なご意見・ご質問と回答・見解

(統合全般)

ご意見・ご質問	回答・見解
沼田西中学校に在籍している生徒は、統合となった時から沼田中学校に通うことになるのか、卒業まで沼田西中学校に通うのか。	統合時から沼田中学校へ通うことになります。
岩本町の子供が利根郡昭和村中学校に通学する選択肢はあるのか。	全国的に自治体を超える例がない訳ではありませんが、本市においては自治体内通学で考えています。
子供の人数が減っていく前提であれば、その先まで含めて考えたのか。	令和6年4月1日までの出生数から見定める最長の期間を計画期間としています。
この素案の確定等を含め、今後のスケジュールはどうか。	令和7年2月頃からパブリックコメントを実施する予定です。寄せられたご意見の件数等によっては、その回答に時間を要することから、実施計画の確定時期等について具体的な日程はお示ししていません。素案では、令和8年度に多那小中学校の統廃合をお示ししていることから、その準備等が間に合うように進める予定です。 なお、この素案は、学校統廃合に係る最短のスケジュールをお示ししています。計画に理解を得られない地域があるかもしれませんが、その場合は、理解を得られた地域から計画を進めることになります。
最短のスケジュール案だということだが、沼田中学校への統合については、できるだけ早くしていただきたい。人数の多い方が部活動や学習への取り組みが変わるのでないか。クラス替え等で環境を変えられる選択肢も増える。	沼田中学校への統合では、普通教室の増築等が必要であることから、その設計や施工に時間を要しますが、スピード感をもって取り組んでまいります。 統廃合の検討を進めるに当たっては、適正規模・適正配置の観点から素案を作成しました。ご意見のとおり適正規模を確保することのメリットをご理解いただいた上で統廃合を進めていきたいと考えています。
他の学校が統合により100人を越えたり、特色のある学校になったりすることで、川田小学校の児童数が予想よりも減ってしまうと思う。現在、子供が小学校に上がる時に、川田地区から出ていく家族が一定数いる中、それを加速させるように思う。川田小学校も現在の池田小学校や利根小学校と同じ状況になってしまうのでないか。そうなった時に、今回の説明では、小規模特認校になることもできない、代案もない状況では、川田地区の学校問題は、何も解決しない様に感じた。	素案では、既に複式学級（2学年以上で1学級）が生じている池田小学校や利根小学校は特に深刻であるため、池田小学校は小規模特認校、利根小学校は小学校4年生までの分校化を提示させていただきました。また、小規模特認校は、学区を越えて就学できる特別な措置であり、市内に複数の小規模特認校を設置しても効果がないため、児童数の減少が特に深刻な池田小学校への導入を予定しました。 川田小学校においても特色のある教育課程を充実していけるよう取り組んでまいります。

(通学)

ご意見・ご質問	回答・見解
中学生は、部活等で子供によって帰宅時間が違う。川田地区は、国道を超えて通学しなければならないため心配である。	小学生と中学生合同のスクールバス運行を想定しており、中学生は、川田小学校に集合するなど、小学校を拠点としたスクールバスの運行も検討

【川田地区】

地区別の主なご意見・ご質問と回答・見解

中学校の統廃合は、子供達の通学手段が明確にならなければ賛成も反対もできない。	しております。現在、小中学校合同でスクールバスを運行している学校の下校時は、小学校向けの早い便、部活動後の遅い便等に分けてスクールバスを運行しておりますので、参考に検討してまいります。
スクールバスの本数や時間は検討しているか。	
スクールバスだけでなく、路線バス事業者と連携した通学支援を希望する。通常時の登下校だけでなく、中間・期末テストの期間等のイレギュラーな通学時間にも対応できるよう路線バス事業者と連携していただきたい。	路線バスの活用についても研究を進めておりますが、運転手の確保や路線の見直しなどの課題について、関係機関と協議・検討を進めます。バス事業者との連携は、市内の公共交通の発展にもつながりますので、参考とさせていただきます。
川田地区から小規模特認校（案では池田小学校）まで通学する場合、スクールバス等を利用した場合でも、大きなコストが発生し、実現不可能だと思う。	市内全域をスクールバスで回することは、財政的にも時間的にも困難であるため、ターミナル方式を検討します。小中学校統廃合の枠組みが決まり次第、ご指摘のとおりコスト面についても考慮しながら、具体的な検討を進めてまいります。
統合により自転車通学の生徒も多くなると思うので、自転車のマナーや交通ルール等をしっかりと学習させて欲しい。	沼田西中学校では、自転車通学者のみならず、希望する生徒に対し、自動車教習所において交通マナー等の講習を実施しており、今後も継続した取組が必要と考えています。

(その他)

ご意見・ご質問	回答・見解
義務教育学校と小中一貫校の違いは何か。	どちらの学校も義務教育 9 年間の学習を統括する仕組みです。小中一貫校は小学校と中学校にそれぞれ校長や教職員組織が存在するのに対し、義務教育学校は一人の校長、一つの組織となっています。
池田小学校が小規模特認校とあるが、川田小学校も小規模特認校などの特色がある学校にしていなければありがたい。	川田小学校は、1 学年 1 学級ですが、池田小学校では既に複式学級（2 学年以上で 1 学級）が存在します。今回の素案では、まずは複式学級の解消を目指し池田小学校を小規模特認校としております。川田小学校についても特色のある教育課程を充実していけるよう取り組んでまいります。
義務教育学校、小中一貫校、小規模特認校と聞き慣れない学校が出てきたが、どういう理由で設置するのか。川田小学校は、そのままなのか。	近年の教育内容の量的・質的充実、児童生徒の発達の早期化等への対応のため、学校の形態を問わず、義務教育 9 年間の全体像を把握し、系統性・連続性に配慮した教育を充実してまいります。
中学校の部活の説明について運動部の話ばかりで、文化部とのバランスの悪さが気になった。中学校の統廃合の際には、文化部と運動部の数の割合を五分五分に近い割合にして欲しい。	現状では 1 割弱の生徒が文化部に所属しています。昨年度から、全ての中学生が多様なスポーツ・文化芸術活動に親しめるよう、部活動の地域展開により、学校や地域の実情に応じた持続可能な環境整備を進めており、文化芸術活動についても、引き続き環境整備に努めてまいります。
下校時は、街灯があっても暗い状況なので、新しい制服は、反射板素材の利用等で暗くても目立つ制服を希望する。	通学服や体操服、通学カバン等については、準備委員会等の組織を設置し、生徒や保護者、学校関係者等のご意見を参考にしながら、機能性、経済性、安全性、多様性等に配慮してまいります。